

# 私立大学研究ブランディング事業 成果報告書

学校法人番号	131059	学校法人名	東京工芸大学
大学名	東京工芸大学		
事業名	「色」で明日を創る・未来を学ぶ・世界を繋ぐ KOUGEI カラーサイエンス&アート		

## ■ 事業推進・支援体制の整備

前頁に示した大学全体が目指すビジョンの実現に向け、全学的な研究の推進と研究成果の戦略的な発信を担う事業推進・支援体制を整備するために、「全学研究支援委員会」、「色の国際科学芸術研究センター」、「同・管理運営委員会」、「同・事業推進実行部会」、「同・自己点検・評価部会」を新たに発足させた。

## ■ 全学的な研究の推進

毎年度「色」に関する研究テーマの公募を全学的に行い、「全学研究支援委員会」での審査により、重点研究テーマを選定し予算配分額を決定した。事業期間中に採択され実施された研究テーマは合計34件である。「管理運営委員会」を四半期に1回開催し、各研究テーマの進捗状況及び研究費使用状況をチェックするとともに、年度末には「自己点検・評価部会」で研究成果の評価を行い評価結果を次年度の研究費配分にも反映させている。全研究テーマの紹介文及び研究成果を「色の国際科学芸術研究センター」特設ウェブサイトに掲載している。

<https://www.color.t-kougei.ac.jp/research/index.html>

## 事業成果

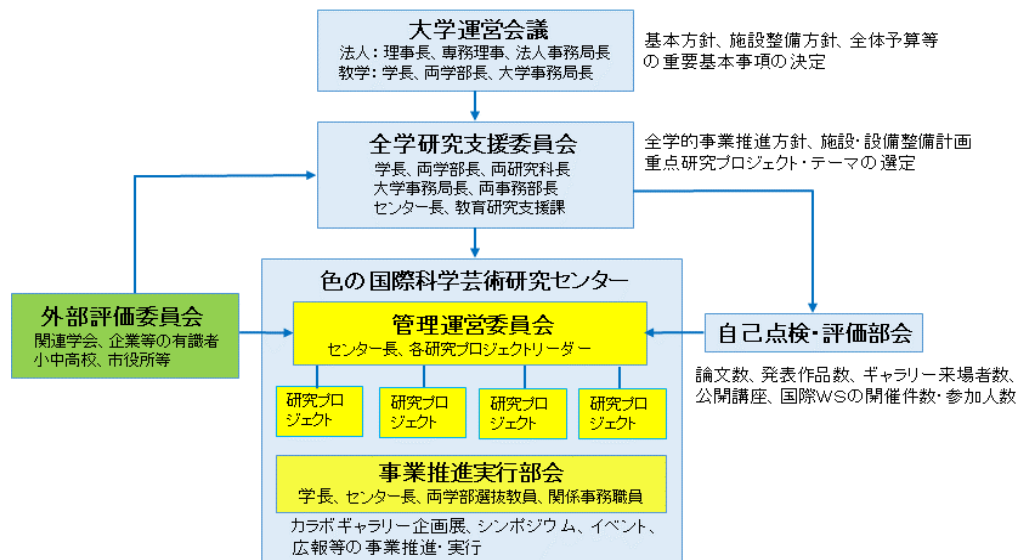


図1 事業推進・支援体制

## ■ 社会に向けた情報発信

### 1. カラボギャラリー企画展と情報発信

平成29年7月22日に、国内初となる「色」の常設ギャラリー（愛称：カラボギャラリー；col.lab）を、本学厚木キャンパス「色の国際科学芸術センター」内に開設した。同年8月4日にはカラボギャラリーの竣工式典と除幕式を行った。col.labのロゴデザインや建物のサイン計画は、東京2020オリンピック・パラリンピックススポーツピクトグラムデザインで著名な廣村正彰氏（当時、本学芸術学部教授）が行った。カラボギャラリーでは、半年に1回、新しい企画展を一般公開し、色のサイエンスや本学の研究成果を、メディア芸術の手段で子供から大人にまで、わかりやすく楽しく伝えている。この取り組みは、工学部と芸術学部を持つ本学ならではの、そして本学にしかできないブランディングの取り組みである。

cololab  
gallery  
Color Science and Art Center

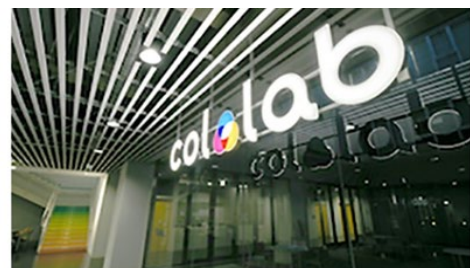


図2 カラボギャラリーのロゴと色の国際科学芸術センター玄関のサインボード

新しい企画展を開催する際には、ポスターやチラシを、小中学校・高校、地元市役所・商工会議所、関連学会、美術館等に送付するとともに、マスコミ各社にプレスリリースを配信した。また著名人を招いたオープニングトークや企画展に連動した特別講義や体験ワークショップも開催した。さらにFacebook, Twitter, Instagramでも頻繁に記事を投稿し、ネット広告も行うなど社会に向けた情報発信に努めた。これまで以下の5回の企画展を開催してきたが、各企画展のパンフレット、チラシ、YouTube動画は特設ウェブサイト内に掲載している。第1回「色をつくる 赤と何を混ぜると緑になる?」、第2回「色覚を考える展 Thinking about Color Vision」、第3回「色を探検する展 Explorer of Color」、第4回「Taisuke Koyama: Ranibow Variations」、第5回「色と対話する展 Talking with Color」。 <https://www.color.t-kougei.ac.jp/gallery/index.html>



図3 カラボギャラリー企画展「色をつくる 赤と何を混ぜると緑になる?」

## 2. 国際シンポジウム等の開催と情報発信

毎年度末には、本事業の研究成果発表を兼ねたシンポジウムを開催している。

平成30年度末には本学中野キャンパスで、国際シンポジウム”The 1st International Symposium for Color Science and Art 2019”を開催した。主催は、東京工芸大学「色の国際科学芸術研究センター」で関連5学会の後援を得て実施した。本学学長と理事が訪問し連携を深めてきた東フィンランド大学、中国文化大学、タイ・チュラロンコン大学の教授3名を招待してプログラムを構成した。 [https://www.color.t-kougei.ac.jp/events/events28\\_18.html](https://www.color.t-kougei.ac.jp/events/events28_18.html)

## 事業成果

令和元年度末にもロチェスター工科大学教授や元米国画像学会長を招いて”色の科学・芸術に関する国際シンポジウムとメディア芸術作品展覧会(The 2nd International Symposium for Color Science and Art 2020)”を開催すべく、全ての研究成果論文を掲載したProceedingsを発行し、col.labで展示した作品の中から選りすぐりの体験型メディアアート作品展覧会を準備していた。さらに東京オリンピック・パラリンピック組織委員会の「東京2020参画プログラム」の「東京2020文化オリンピアード」に、この「色の科学・芸術に関する国際シンポジウムとメディア芸術作品展覧会」を申請し認証を得ることができた。チラシやポスターには「東京2020参画プログラム」のロゴマークも付け、各所に発送するなど万全の体制で臨んでいたが、コロナウィルス感染拡大の影響でやむなく中止(当分の間延期)とした。ただし、同Proceedingsに掲載した全論文が、日本写真学会誌83巻2号(2020年5月発行)の特集に転載されることとなった。

[https://www.color.t-kougei.ac.jp/events/events28\\_22.html](https://www.color.t-kougei.ac.jp/events/events28_22.html)

平成29年12月8日～10日には、本学中野キャンパスにおいて、”The 2nd International Conference on Culture Technology”が開催され、本学の事業を紹介する Special Session ”Color Science and Art”も設けられた。

[https://www.color.t-kougei.ac.jp/events/events28\\_8.html](https://www.color.t-kougei.ac.jp/events/events28_8.html)

## 3. 学外でのイベントと情報発信

令和元年8月16日～18日に、フィンランドのエミール・セーデル・クロイツ美術館で、これまでのcol.labでの活動の一部を展示・紹介するとともにミニシンポジウムを開催した。

[https://www.color.t-kougei.ac.jp/events/events28\\_20.html](https://www.color.t-kougei.ac.jp/events/events28_20.html)



図4 フィンランド エミール・セーデル・クロイツ美術館での展示とシンポジウム

平成30年度と令和元年度には、「出張カラボギャラリー」と称して、地元厚木市地下道でのCHiKaフェスやパシフィコ横浜でのロボフェスにカラボギャラリーのインタラクティブ作品を8点選定して展示した。来場者数は、CHiKaフェス約1300人、ロボフェス約4600人であった。



図5 出張カラボギャラリー in 厚木CHiKaフェス, in パシフィコ横浜

平成30年7月26日～30日には、国際総合印刷テクノロジー&ソリューション展“International Graphic Arts Show 2018”（於 東京ビッグサイト）に、本学研究ブランディング事業を紹介するブースを設けて展示を行った。

[https://www.color.t-kougei.ac.jp/events/events28\\_13.html](https://www.color.t-kougei.ac.jp/events/events28_13.html)

平成30年9月17日には、朝日新聞が主催する大型のシンポジウム企画「朝日教育会議」に参画し、研究ブランディング事業に関連させ、「人をつなげる・色で伝える～工学と芸術の可能性～」と題してシンポジウムを開催した。来場者数は630名で会場の有楽町朝日ホールは満席となった。<http://manabu.asahi.com/aef2018/tokyokougei.html>

#### 4. 関連学会との連携と学会賞の受賞

平成29年8月24日に、日本画像学会・日本視覚学会のコラボレーション企画として、本学中野キャンパスにおいて画像工学のための視覚科学セミナー「心理物理定量化の基礎」が開催された。[https://www.color.t-kougei.ac.jp/events/events28\\_3.html](https://www.color.t-kougei.ac.jp/events/events28_3.html)

令和元年6月1日には、日本色彩学会第50回全国大会が本学中野キャンパスで開催され、学長が本学の研究ブランディング事業の活動を紹介する基調講演を行った。

[http://www.color-science.jp/zenkoku2019/News43\\_3.pdf#page=5](http://www.color-science.jp/zenkoku2019/News43_3.pdf#page=5)

令和2年2月7日には、日本印刷学会 第16回紙メディアシンポジウム「メディアとしての紙の科学と芸術」で、本学教員が「紙メディアにおける色彩の科学と芸術」と題した講演を行った。

[https://www.color.t-kougei.ac.jp/news/20200228\\_28.html](https://www.color.t-kougei.ac.jp/news/20200228_28.html)

平成30年度には、本事業による研究成果論文が「2018年度日本写真学会論文賞」を受賞した。この賞は、2018年内に日本写真学会出版の論文誌に掲載された論文の中で最も優れたものに授与される。<https://blog.t-kougei.ac.jp/cmc/2019/07/11/322/>

#### ■ 私立大学研究ブランディング事業の経費の活用

補助金の1/2弱を選定した研究テーマの研究費として配分し、約1/4を年間2回のカラボギャラリー企画展の作品制作・展示・広報に活用し、残りの約1/4をシンポジウムの経費・広報、海外の大学との連携旅費、特設ウェブサイトのサーバー使用料、英語・中国語サイト作成、カラボギャラリー及び事務アルバイト人件費等に活用した。

#### ■ 総括

本事業に対して真剣かつ精力的に取り組み、補助金の適正な執行にも努めた。写真をルーツとし工学部と芸術学部を有する本学の特色と強みを生かした研究を推進し、その成果の情報発信を本学ならではの手段で極めて積極的に行ってきた。学長が目指した「真の工・芸融合」というビジョンも、その実現に向けて大きく進展した。本事業開始前と比べて、工学部・芸術学部ともに入試志願者数は2倍以上に増加したので、本事業は本学のブランド力向上に大きく貢献したと考えている。

### 事業成果

### 今後の事業成果の活用・展開

学校法人東京工芸大学第2次中期計画(2018年度～2022年度)では、「学生第一主義(学生ファースト)」の理念を基礎として、「東京工芸大学のブランド力向上」を目標とする、と掲げられており、この目標の背景にも「私立大学研究ブランディング事業」があったと推察される。その中で研究分野(大学院等の強化)の施策として、「実績のある「風工学研究センター」及び新設の「色の国際科学芸術研究センター」については、本学の重要研究拠点と位置づけ、その機能を更に強化していく。」と述べられている。「私立大学研究ブランディング事業」の補助金助成は終了したが、今後も大学からの予算措置によって「色の国際科学芸術研究センター」の活動を継続していく。令和2年度にも17件の研究テーマの採択発表を5月に行ったところである。さらに、コロナウィルス感染拡大のため中止(当分の間延期)とした「色の科学・芸術に関する国際シンポジウムとメディア芸術作品展覧会(The 2nd International Symposium for Color Science and Art 2020)」や新たなカラボギャラリー企画展もコロナウィルス収束後に開催すべく準備を行っているところである。今後も研究をより深化させ、情報発信を積極的に行うことで、大学の研究基盤を活性化し、大学の経営基盤の強化につなげていきたい。